

欧米におけるFinTechへの対応と日本への示唆

五十嵐 文雄

目 次

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 海外のFinTechサービスとは | 4. 海外金融機関の取組み |
| 2. 暮らしのデジタル化とFinTechサービス | 5. 日本の金融機関が考えるべきこと |
| 3. 欧米金融機関におけるFinTechの位置付け | |

日本国内では、FinTechの話題を聞かない日はないくらいのブームであり、様々な動きが出てきている。では、海外で注目されるFinTechはどういうもので、金融機関はそれをどう捉え、どのように対応しようとしているのだろうか？

今回は、筆者が数回にわたり欧州で行った金融機関へのインタビュー結果などを交え、彼らがどのような対応を行い、今後どうしようとしているのか、また、その中から、日本の金融機関が今考えなければならないことを示唆として紹介する。

1. 海外のFinTechサービスとは

そもそもFinTechは、FinanceとTechnologyを合成した造語であり、決して新しい言葉ではなく、古くから存在する言葉である。

従来から、金融とITとは切っても切れない関係にある。金融機関の業務がシステム化され、またATMの登場により顧客が自ら現金を出し入れすることが可能となった。インターネットの普及に

伴い、インターネットを介したインターネットバンキングなどのサービスが登場し、銀行に行かなくとも残高を照会することができ、振込みもできるようになった。更に、携帯電話を使い電子マネーで決済できるようなサービスも登場した。わが国の金融機関間の決済においても、日銀システムや全銀システムなどITはなくてはならないものである。FinTechという言葉は、サービスを指すことも、サービスを開発提供する企業を指すこと



五十嵐 文雄 (いがらし ふみお)

(株)野村総合研究所 金融デジタルイノベーション推進室上席コンサルタント。
1985年小樽商科大学商学部卒業。同年4月野村コンピュータシステム（現・野村総研）入社。大手金融機関の国内外のシステム開発企画に従事。4年半の大手金融機関の企画部門への出向などを経て、04年より、金融機関のチャネル戦略、ビジネス企画などのコンサルティング業務に従事。10年から12年には欧州拠点長を経験。